

No	⑤	分類	2-(2)-ア	資料名	どうしてだろう	学年	1・2年	領域	特別活動（学級活動）
----	---	----	---------	-----	---------	----	------	----	------------

### 1 ねらい

- 人を性差のみによって判断することの誤りに気づき、個性を認め、友だちと協力しようとする。

### 2 趣旨

- 低学年においては、性別にとらわれず抵抗なく活動している場面も多いが、この時期から次第に遊びや生活の中で性別による役割を固定化した考え方（イメージ）があらわれてくる。これは、まわりのおとなたちの意識の影響も大きい。ここでは、男女共同参画社会を担う一員としての考え方や資質を養う。
- 日頃の生活の中で、性別による役割や必要のない区別を強いられた経験を思い出させながら、性差だけで決めつけることの不当性を見抜ける力を養う。

### 3 配慮事項

- 教師自身が「隠れたカリキュラム」として、いつのまにか「女らしさ・男らしさ」を子どもに求めていたり、学級の役割を決めるときに性別役割分担意識にとらわれたりしていないか、まず振り返ることが大切である。
- 家庭での保護者の指導を否定することのないように配慮したい。
- 性同一性障害などセクシャルマイノリティの児童やその家族がいる場合、状況や保護者の願いなどを十分に把握し、連携を保ちながら指導することが必要である。

### 4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 資料を読んで、自分が性別で決めつけられた経験を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             今まで、「女の子は…」や「男の子は…」と、言われたことはありますか。           </div> ・「女の子なんだから、食器運びを手伝って。」と言われたよ。 ・「男の子なのに、泣いたらだめ。」と言われたよ。	・自分の生活を想起させ、意識を高める。  ・身近な生活体験から、意見を発表させる。
2 言われたときの気持ちについて、話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             そのとき、どんな気持ちになりましたか。           </div> ・女の子だけが食事の後片づけをするのは、おかしいと思うな。 ・ほくだって泣きたいときもあるよ。	・性別により不必要な区別をされることのおかしさに、気づかせたい。 ・「女・男らしく」という性差のみによる捉え方でなく、「自分らしさ」を大切にしようとする生き方や、友だちの個性を大切にしようとする意欲に結びつけたい。
3 学級の課題に気づき、その解決に向けて話し合う。	・学級に事案がある場合、個人攻撃にならないように配慮する。

### 5 参考

- ・ 小学校低学年用 인권教育資料『ほほえみ』のNo.16『自分らしく』につなげていくこともできる。
- ・ 展開の途中で、自分たちの中に「女（男）の子は…」という刷り込みがされている場合も多いことに気づかせる活動もできる。